

平成29年度「福井ふるさと元気宣言」推進に係る政策合意の実施結果
(平成30年3月末現在)

「福井ふるさと元気宣言」の4つのビジョンを着実に実現していくため、平成29年4月に知事と合意した「政策合意」の実施結果について、次のとおり報告します。

平成30年3月

福井県教育長 東村 健治

項 目	実 施 結 果
<p>1 人口減少に歯止めをかける徹底戦略</p> <p>◇幸福度日本一福井へ 移住・定住戦略</p> <p>○地場産業の宝庫・福井でチャレンジの夢ひらく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普通科系高校1年生の企業訪問について、文系・理系・女性などのコースを増やし、福井の職業や企業の魅力を伝え、大学卒業後に福井で働く意識を高めます。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>普通科高校1年生730名が県内企業38社(36コース)を訪問し、ふるさと福井の職業や企業について学ぶとともに、県外の大学から福井に戻って就職した若手社員と意見交換を行うなど、将来福井県で働く意識を高めました。</p>
<p>2 福井から人材育成</p> <p>◇「ふるさと」を思うグローバル人材教育【部局連携】</p> <p>○「ふるさと教育」の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全中学校・高校の授業等で「ふるさと福井の先人100人」を引き続き活用し、先人の生き方や考え方について発表や討論を行う学習を進め、福井や自らの将来を考える機会を増やします。 ・福井ゆかりの百人一首などを取り入れた県独自教材「古典音読・暗唱ノート」の内容を充実し、小・中学生が古典に親しむ機会を増やします。 ・白川静博士の著作物や白川文字学の教材を活用した研修を行い、学校での漢字教育をリードする漢字指導者を増やします。 (平成28年度 累計263人) <p style="text-align: center;">漢字指導者数 20人増 累計283人</p>	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>中学校では、県独自教材「ふるさと福井の先人100人」を活用し、道徳の時間に「郷土愛」等の学習内容にあわせて計20人を学習しました。また、高校では、ホームルーム等で各学年10人を学習し、先人の生き方や考え方を学び、進路選択等の指針として活用しました。</p> <p>昨年3月22日に、全小・中学校(294校)に増補版を配付し、国語等の授業、朝の会や帰りの会等において活用を推進しました。11月24日の研修会で、各学校の様々な活用の好事例を、全小・中学校に紹介しました。8月21日、12月26日に教材を活用した授業方法の研修会を開催しました。</p> <p>白川静博士の著作を読み、博士の研究内容についての理解を深め教材研究に活かす教員向けの研修を3回実施し、計190人の教員が参加しました。また、学校での漢字教育をリードする漢字指導者を22人増やしました。</p> <p style="text-align: center;">漢字指導者数 22人増 累計285人</p>

項 目	実 施 結 果
<ul style="list-style-type: none"> 書道団体と連携し、学校に書写・書道の外部指導者を新たに派遣するとともに、筆使いの基本など、全小中学校の教員を対象に研修を実施します。 本県ゆかりの企業経営者など「ふるさと先生」による授業を全ての高校に拡大していきます。 (平成28年度 25校) <p>「ふるさと先生」による特別授業実施校 25校</p>	<p>小・中・高校79校に外部指導者を派遣し、児童生徒の書字能力と教員の指導技術を高めました。</p> <p>実技研修に419人の教員が参加し、小中学校の書写担当教員の指導力向上を図りました。</p> <p>本県ゆかりの企業経営者等が「ふるさと先生」となり、国際的な挑戦、夢の実現、リーダーとしての役割などについて授業を行い、高校生が将来の福井や自分の生き方を考える機会を拡充しました。</p> <p>「ふるさと先生」による特別授業実施校 26校</p>
<p>○「使える」外国語教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校英語の教科化の先行実施に向けた指導案や教材、評価テストを作成するとともに、NHK語学番組を活用し、小学校教員を対象にした研修会や教材作成を行います。 生徒が英語を聞き話す活動を充実させた授業を進めるとともに、地域の観光地など福井のよさを英語でPRする機会を設けるなど、使える英語の力を育成します。 (平成28年度 中学生47%) (平成28年度 高校生45%) <p>英検3級相当以上を取得した中学生 50% 英検準2級相当以上を取得した高校生 50%</p> <ul style="list-style-type: none"> 地区ごとに経験豊かなALTが中心となって指導法を共有するとともに、日本人教員による日本語講座を実施し、放課後に生徒と交流する機会を増やすなど、ALTの指導力や日本語力を高めます。 高校と大学が連携して中国語や中国経済の授業、中国人留学生との交流を行うなど、中国語教育を進めます。 	<p>〔成果等〕目標を達成しました。</p> <p>指導案や教材、評価テストを作成して、全小学校に配付しました。すべての小学校から教員392名が参加し、その活用方法についての研修を開催しました。</p> <p>NHK語学番組を活用するための研修を実施し、小学校教員213名が参加しました。</p> <p>各中学校において、英語で福井をPRする授業を行い、修学旅行先などで外国人観光客等に実際に紹介する活動を取り入れました。</p> <p>英検3級相当以上を取得した中学生 62.8% 英検準2級相当以上を取得した高校生 52.4%</p> <p>経験豊かな中学校および高校のALTが授業を公開し、年4回、授業法を検討しました。また、日本人教員による日本語講座を年3回実施し、日本語能力向上に努めました。さらに、すべての中学校や高校で、休み時間等にALTと生徒が互いの言葉や文化について教え合う機会を設定しました。</p> <p>足羽高校において、福井大学をはじめとする大学教員や有識者による中国語や中国文化、経済等の授業を実施するとともに、福井大学や県立大学中国人留学生との交流で、生徒の中国語力の向上に努めました。</p>

項 目	実 施 結 果
<p>◇「福井型18年教育」の進化【部局連携】</p> <p>○小・中学生の学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに、効果を上げている学校の特長ある指導方法や教材を収集するとともに、全小・中学校に提供し、指導主事による継続的な学校訪問を行うことにより、指導方法等の確実な定着・普及を図ります。 ・小学校高学年において理科の教科担任制の導入を進めるとともに、中学3年生の英語の習熟度別授業を中学2年生に拡充します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました</p> <p>「教材・評価問題集」、「学校マネジメント集」を作成し、全小・中学校に配布しました。「教材・評価問題集」は、小学3～6年(国語・算数・理科)、中学1～3年(国語・社会・数学・理科)を作成し、「学校マネジメント集」は25校の取組みを記載しました。</p> <p>8月3日、8日、9日に全小・中学校の教科主任(小490名・中264名)、11月24日に全小・中学校(293名)の校長を対象とした研修を実施しました。</p> <p>小学校における約6割(366学級/589学級)において、高学年での理科教科担任制を行うことにより、専門性を活かした理科授業を展開しました。中学2年の英語の習熟度別学習実施校が7校増加しました。</p>
<p>○「学力・体力」に加え社会参加を促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりへの参画や農業体験など、児童・生徒が地域住民や企業とともに企画・提案する体験学習の実施校を拡大します。 (平成28年度 28校) <p>提案型の体験学習を実施する小・中学校 114校増 累計142校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主権者教育にかかる指導事例集を作成し、高校の教員向けの研修を充実するとともに、模擬選挙の実施や国・地域の課題を話し合うなどの実践的な学習を行い、生徒の主権者としての意識を育てます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>地域住民等と連携し、まちづくりへの参画や農業体験、伝統行事の継承など、児童・生徒が企画・提案する体験学習を142校で実施しました。</p> <p>提案型の体験学習を実施する小・中学校 114校増 累計142校</p> <p>5月に主権者教育指導者講習会を開催し、地歴・公民科以外の教員155名が受講しました。また、県独自の指導事例集をすべての県立学校の教員に配付し、生徒会予算の配分等の身近なテーマについての討論や模擬投票等の実践的な学習を実施しました。</p>

項目	実施結果
<p>○高校の学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校長をトップとした大学指導体制を強化し、校内の教科研究会において教員の指導力を高めるとともに、生徒の成績分析を行い、学力向上を徹底します。 ・到達度確認テストの問題作成教員を増員し、若手・中堅教員を育成するとともに、新たに指導主事が分析結果をもとに学校訪問を行い、授業を改善します。 ・学校と生徒・保護者の連携を密にし、1年生から保護者を含めた研修を行うなど、進学指導を強化するとともに、2年生から志望大学別の対策講座や個別添削指導を新たに実施します。 ・記述・論述型問題の拡充や高校ごとの選択問題の導入、外部検定を活用した英語スピーキング評価など、新たな高校入試制度を平成30年度県立高校入学者選抜から実施します。 ・2年目を迎える大学進学サポートセンターにおいて、退職教員による学習会を拡充するとともに、新たに推薦入試等の学習支援を実施します。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>大学入試問題を研究するなど教科研究会を強化し、教員の指導力を高めるとともに、校長をトップとした大学指導体制により学校独自教材を作成し、早期からの個別添削指導や志望大学別講座を実施しました。</p> <p>問題作成教員を80名から100名に増員し、4回分の到達度確認テストを実施しました。誤答分析・学習のポイントを作成するとともに、指導主事がテストの結果等をもとに、学校を訪問し、授業参観・指導助言等により、授業を改善しました。</p> <p>4月に1年生の生徒・保護者を対象に「大学進学セミナー」を実施し、進学意欲を喚起するとともに、8月には大学別研修を実施しました。また、2年生を対象に、長期休業や土曜日等を活用して、志望大学別の対策講座や個別添削指導を実施しました。</p> <p>8月に高校入試制度の見直し方針を決定し、平成30年度高校入試実施要項を発表しました。</p> <p>大学進学サポートセンターにおいて、高校を卒業した生徒78名が登録しました。新たに国語の講師を配置して推薦入試等の学習支援を拡充し、大学への進学を支援しました。</p>
<p>○幼児教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町幼児教育アドバイザーや園内リーダーを養成するとともに、幼児教育支援センターによる巡回訪問を増やします。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>福井県独自の保幼小接続カリキュラムの核となる子どもたちの「学びに向かう力」の育成を実践するため、市町において域内の幼児教育を推進する人材を育成する「市町幼児教育アドバイザー養成研修」、園内研修を活性化し園の中核となる人材を育成する「園内リーダー養成研修」、巡回訪問を昨年度に引き続き実施しました。</p> <p>公私園種の枠を越えた合同研修を行い、研修の集大成として幼児教育フォーラム（663名参加）を開催し成果を発表しました。今年度は、市町幼児教育アドバイザー27名、園内リーダー91名が認定されました。</p>

項目	実施結果
<p>○教員の授業力・指導力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育総合研究所において、教員研修を総合的に見直し、学校のマネジメントや実務に役立つ研修を強化するとともに、通信型研修の活用などにより効率化を進め、教育力の向上を図ります。 ・教科指導や学級経営など、若手教員グループによる自主研究の支援を拡充し、教員の研究活動の活性化を図ります。 ・授業に役立つ教材作成や情報収集を進め、速やかに教員に提供します。 ・新たに「教育博物館」を開設し、福井ゆかりの教育者や教育の歴史を展示するとともに、全国トップクラスの福井の教育を県民や全国に発信します。 交流拡大施策 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>「中堅教諭等資質向上研修(388名)」、「ミドルリーダー研修(102名)」、「マネジメント研修(48名)」において、学校のマネジメントに関する研修を強化するとともに、新たな教育課題への対応として「主体的・対話的で深い学び」「ICT」に関する研修を若手教員566名、中堅教員203名に対して実施しました。</p> <p>教科指導や学級経営のほか、若手教員グループのICT活用等の研究活動に対し、100件の支援を行いました。</p> <p>教育総合研究所特別研究員の監修による「コーパスを活用した中学生のための英語表現集」、「科学的思考を育てる物理実験集」を作成し、提供しました。</p> <p>4月15日に開所記念式典を実施。ふるさと教育をテーマとした企画展の開催や、福井震災に関する特集展示を行い、福井の教育の歴史や福井の教育を全国に発信しました。</p>
<p>○学校業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職による教員の勤務時間管理を徹底するとともに、新たに平日の部活動休養日の設定や外部人材の活用により、教員の負担を軽減します。 ・新たに各学校共通の校務支援システムを整備し、校務の効率化を進めます。 	<p>〔成果等〕 目標を達成しました。</p> <p>勤務時間の把握と長時間勤務者への面談指導を行うとともに、部活動休養日の設定、学校運営支援員などの配置により、昨年に比べて勤務時間が縮減され、月80時間超過者も減少しました。</p> <p>教職員の成績管理の処理や各種帳簿の電子化など各学校共通の校務支援システムを開発・整備し、30年4月から運用を開始します。</p>

項目	実施結果
<p>○職業高校の新カリキュラム・産業教育プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> 職業系高校の生徒の資格取得や企業実習等の成果を福井フューチャーマイスターとして認定し、企業の即戦力となる人材を育てます。 (平成28年度 1,854人) <p>福井フューチャーマイスター認定者数 1,900人</p> <ul style="list-style-type: none"> 若狭東高校において菓草の産地化や施設園芸に対応できる教育を進めるとともに、福井農林高校、坂井高校において栽培に加え、加工や流通など経営の学習を拡充します。 	<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>県内の高校3年生1,789名を福井フューチャーマイスターとして認定しました。企業と連携した実務に役立つ資格の取得を支援することにより、生徒の資格取得への意欲が向上し、対象生徒数に対する認定割合は上昇しましたが、認定基準の厳格化や生徒数の減少により、認定者数の目標達成には至りませんでした。</p> <p>今後、民間事業者から広く意見を求め、制度の認知度を向上させます。</p> <p>福井フューチャーマイスター認定者数 1,789人</p> <p>若狭東高校では、コウギク栽培の普及活動と商品開発、菓膳料理教室の開催および水耕トマトの食味向上実験等を実施しました。</p> <p>福井農林高校では、温室や食品加工室等を整備するとともに、新たに食品製造の基礎やマーケティングの学習を拡充しました。</p> <p>坂井高校では、温室と販売所を整備するとともに、新たに接客や販売促進の方法などの学習を拡充しました。</p>
<p>○児童・生徒はみんな笑顔に</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校について、学校のスクールカウンセラーを含めたチーム対応を充実するとともに、新たに教育総合研究所に学校サポートチームを設置し、深刻ないじめの解消や引きこもり児童生徒の学校復帰を支援します。 特別支援学校に学校ジョブコーチを増員し、就労応援サポーター企業や実習機会を拡大するなど、生徒の一般就労を進めるとともに、一人ひとりの特性に合わせた就労支援を行います。 (平成28年度 40.5%) <p>特別支援学校生徒の一般就労率 35.0%</p>	<p>〔成果等〕 目標達成にはいたりませんでした。</p> <p>校長を対象とした「いじめ・不登校対策研修会」を開催し、子どもの個性や特性に応じた教師の関わり方など、生徒理解に対するきめ細かな配慮についての指導等を行いました。</p> <p>心理の専門家であるスクールカウンセラーには、個別面談以外にも全員面談等を依頼し、気がかりな子どもの早期発見に務めるよう促し、チームで早期に対応できるような体制を図りました。その結果、相談件数も大幅に増加しました。 (相談件数前年度比約7,100件の増)</p> <p>学校サポートチームについても、学校では抱えきれない重大な事案に関して、小中高特別支援学校の児童生徒122名に対して支援を行いました。</p> <p>実習受け入れや技術指導に協力する就労応援サポーター企業は101社が加わり、204社が登録しました。また、学校ジョブコーチが昨年度の45名を上回る49名の企業実習等を支援し、一人ひとりの特性に合わせた生徒の就労に努めましたが、高等部卒業生の就労希望率が低く、一般就労率の目標達成には至りませんでした。</p> <p>今後、実習生の拡大やサポーター企業を活用したジョブマッチングを進め、生徒の就労支援を強化します。</p> <p>特別支援学校生徒の一般就労率 31.5%</p>

項目	実施結果
<p>◇学校の再編・統合</p> <p>○県立高校の次なる再編に道筋</p> <ul style="list-style-type: none"> ・丹南地区では地区懇談会を開催し、再編整備計画の検討を進めます。二州地区においては地元関係者との協議を開始します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>丹南地区では地区懇談会を3回開催し、委員からの意見を踏まえながら検討を進め、12月末に地区再編計画を策定しました。また、武生高校と鯖江高校に探究科（仮称）を設置する時期にあわせて、敦賀高校に新学科を設置します。</p> <p>二州地区の再編については、地元関係者の意見も伺いながら、慎重に検討を進めます。</p>
<p>3 先進的な医療と福祉、健康長寿のふるさと貢献</p> <p>◇県民の健康サポート・システム【部局連携】</p> <p>○子どもの目と歯・生活の健康</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全小中学校において、遠くを見るなど目を休める時間を設けるとともに、目の動きをスムーズにする運動を実施し、近視予防につなげます。 ・歯科医師会と協力し、全小学校において「正しい歯みがき教室」と、すべての1、4年生を対象にした歯の二次健診を実施するとともに、家庭と協力して正しい歯みがきの定着とむし歯治療を促進します。 (平成28年度 70.0%) <p style="text-align: center;">むし歯のない小学生 72.0%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの適正利用について、全ての小・中学校において生徒が自主的にルールを作成するとともに、高校においては生徒会が中心となって話し合いを進め、「ふくい高校生スマートサミット」を開催します。 (平成28年度 小学校 97.4%) (平成28年度 中学校 100%) <p style="text-align: center;">小学校におけるルール作成 100% 中学校におけるルール作成 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに正しい生活習慣、読書やお手伝いの習慣を身に付けさせるため、PTAと連携した研修を行うなど、家庭の教育力を高めます。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全小・中学校において、学校の日課表に位置付けて朝の会などを中心に、目を休める「目のリフレッシュタイム」と目の動きをスムーズにする「ビジョントレーニング」を行い、子どもの目の健康維持に努めました。</p> <p>全小学校において、1～4年生を対象に歯垢染色剤を用いた歯みがき教室を開催するとともに、1年生と4年生に対しては、口型模型を活用した歯みがき指導や歯科二次健診を行いました。また保護者に対してむし歯治療の勧奨を行い、むし歯のない小学生が増えました。</p> <p style="text-align: center;">むし歯のない小学生 72.2%</p> <p>すべての小中学校で、児童会や生徒会を中心として自主的なルールを作成することができました。今後は、内容を検証しながら、各学校で毎年見直しをかけていきます。</p> <p>8月に「ふくい高校生スマートサミット」を開催。38校の代表65人が参加し、ネット・スマホ利用のルールを発表し、共同宣言を確認しました。</p> <p style="text-align: center;">小学校におけるルール作成 100% 中学校におけるルール作成 100%</p> <p>子どもの読書の重要性や食生活、生活習慣等をテーマとしたPTA地区別研修会を県内5地区で開催し、約970名の保護者の参加がありました。</p> <p>「インターネットの適正利用」、「基本的な生活習慣」、「いじめ」に係る内容の家庭教育用リーフレットを3種類作成し、それぞれ7月、10月、1月に配付しました。</p>

項目	実施結果
<p>4 「農」・「林」・「漁」業を意欲と誇りの総合産業へ</p> <p>◇「ふくい食ブランド」を地消・外商【部局連携】</p> <p>○日本で一番おいしい学校給食</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校において、本県独自の教材と実践事例を用いた食育授業を行い、児童生徒の食への理解を深めます。 ・県漁連やJA等と協力し、安価な地魚などの地場産食材を活用したおいしい学校給食を提供します。 ・学校給食調理コンテストを開催し、児童・生徒の食への関心を高めるとともに、学校給食甲子園等の全国大会において上位入賞を目指すことにより、本県給食のレベルアップを図ります。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>全小・中学校において、本県独自の教材と実践事例集を用いた食育の授業を1クラス当たり5回実施し、児童・生徒が食の大切さを学びました。</p> <p>栄養教諭がプロの料理人とともに開発したメニューなどを活用して、地場産食材使用率を高めた給食献立を月1回以上提供するとともに、新たに地場の魚や農産物を使った加工品（ハマチのカレーフライ、トビウオの磯部揚げ、トマトのピューレ等）を開発し、提供しました。</p> <p>学校給食調理コンテストに県内37校44チームの児童・生徒が参加し、地域の食材や食文化への理解を深めました。また、全国学校給食甲子園（文科省所管）において、春江・坂井学校給食センターが「応募献立食育部門賞（3位）」を受賞しました。</p>
<p>5 高速交通時代にブランド・観光オンリーワン戦略</p> <p>◇観光フロンティア・福井【部局連携】</p> <p>○観光人材の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商業系高校の観光の授業において、旅行業者などの外部専門家による授業や地域の観光資源を発見するフィールドワークを行い、高校生の視点から魅力ある観光プランを発信します。 	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>商業系高校全6校で、地域の魅力を発信するため、観光に関する授業を実施しました。</p> <p>旅行業者など外部専門家による授業を28回を行い、専門的な知識の習得と観光プランの評価を実施し、生徒の興味・関心を高めました。</p> <p>観光プランの実践やイベントへの参加など35回のフィールドワークを実施し、研究成果をもとに観光情報紙やPR動画、ポスターを作成しました。また、観光プランの全国大会において、奥越明成高校が3年連続で銀賞を獲得するなど、全国的な情報発信に努めました。</p>

項目	実施結果
<p>6 国体の成功と「スポーツ福井」の実現、文化・芸術を身近に</p> <p>◇県民総参加の福井国体【部局連携】</p> <p>○競技力を高め「優勝」の実現</p> <p>・今年の愛媛国体で10位以内に入賞するため、少年競技を中心に国内の優れた指導者による指導機会を増やすとともに、県外強豪チームとの練習機会を増やし、接戦を勝ち抜く技とメンタルを強化します。 (平成28年度 18位)</p> <p style="text-align: center;">国体総合成績 10位以内</p> <p>・「スポジョブふくい」等により日本代表級を含めた有力選手の確保を進めます。また、実業団等の一線で活躍する本県出身選手と地元選手の練習機会を増やすとともに、愛媛国体からの出場を実現し、チームの連携を深めます。 (平成28年度 累計182人)</p> <p style="text-align: center;">有力選手確保数 38人増 累計220人</p> <p>・北信越国体福井大会(愛媛国体ブロック予選)で本県選手を励ます応援団を結成し、本県国体出場競技を増やすとともに、福井国体の応援体制づくりに活かします。</p>	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>福井国体に向け、オリンピック選手の育成実績等があるスーパーアドバイザーを少年強化に12名追加(総勢88名)し、技術や戦術の実践指導を874回行いました。成年・少年選手ともに県外強豪チームとの練習会を充実させ、選手強化に努め、愛媛国体では総合成績7位を獲得しました。</p> <p style="text-align: center;">愛媛国体総合成績 7位</p> <p>「スポジョブふくい」により、新たに62人の有力選手を獲得するとともに、実業団等の一線で活躍している本県出身のふるさと選手171名が福井国体出場を確約しました。また、ふるさと選手と地元選手との合同練習や遠征試合を増やし、チームの連携を強化しました。</p> <p style="text-align: center;">有力選手確保数 62人増 累計244人</p> <p>北信越国体福井大会において22競技で高校生の運動部員による応援団を結成し、延べ1,636名が選手に声援を送り、昨年より11種目多い過去最高となる78種目で本県国体の出場権を獲得しました。 (出場権獲得：和歌山国体55種目、岩手国体67種目)</p>
<p>◇「スポーツ福井」の実現</p> <p>○子どもから大人まで気軽にスポーツ</p> <p>・国体デモンストラーションスポーツなど気軽に参加できるスポーツイベントを全市町において開催します。 (平成28年度 29回)</p> <p style="text-align: center;">イベント開催数 32回</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>県民スポーツ祭において、県民が気軽に参加できる「スポーツ体験フェスタ」を開催するとともに、各種競技等に約51,000人が参加しました。</p> <p>あわせて、全市町にスポーツイベントの開催を要請し、国体開催競技の紹介や国体デモンストラーションスポーツの体験会等を行いました。</p> <p style="text-align: center;">市町によるスポーツイベント開催数 17市町計 32回</p>

項目	実施結果
<p>◇福井の文化をもっと身近に ○文学館の新展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本県とゆかりのある他県の文学館と連携を進め、資料の相互交流や共同企画を実施するとともに、展示内容の充実を図ります。 ・「ふくい文学ゼミ」の修了生をはじめ、県内高校の文芸部などの活動を紹介し、交流する場として文学フェスタを開催するなど、若い世代の文学者の創作活動を支援します。 (平成28年度 累計48人) <p>文学ゼミ修了者数 20人増 累計68人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高生が関心を持つ図書・資料を充実するとともに、学校と連携して子どもが利用する機会を増やし、文学館や図書館の活性化を進めます。 	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>東京荒川区のゆいの森あらかわ吉村昭記念文学館と全国初の「おしどり文学館協定」を締結し、相互交流や共同展示を行いました。また、県内初公開となる資料の展示なども含め、本県ゆかりの作家に関する企画展や国立公文書館との初の合同企画展を開催し、来館者数が1割強増加しました。</p> <p>文学フェスタを初めて開催し、ふくい文学ゼミ修了生や高校・大学の文芸部、文芸団体など計18グループが活動発表や交流を行いました。また、宮下奈都氏のトークショーや小説創作講座、文学ファンの交流会なども開きました。</p> <p>文学ゼミ修了者数 24人増 累計72人</p> <p>県内小・中・高校に校外学習での来館を促すなどにより、111団体2,911人の見学を受け入れました。また、高校・大学への「ふるさと風花文庫」の貸出を新たに始めました。さらに、生徒の作品展示や高校文芸部との合同学習会など学校との連携を増やしました。</p>
<p>○子どもの芸術・文化活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たに、吹奏楽部に対し外部指導者による演奏指導や大型楽器の整備を支援するとともに、中・高連携による合同練習・演奏会を開催し、吹奏楽の演奏技術の向上を図ります。 ・一流の演奏家による指導や合同練習・合同演奏会の機会を拡充し、小・中・高校におけるバイオリン等の弦楽奏者を育成します。 (平成28年度 171人) <p>弦楽クラブ等参加者数 190人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高校で越前和紙を活用した日本画の授業を行うとともに、芸術大学との連携を進め、出前授業や美術部員の研修会を実施する研究推進校を増やします。 (平成28年度 37校) <p>研究推進校(美術) 39校</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>吹奏楽活動推進校を高校7校、中学校19校に設置し、大型楽器の整備を支援し、推進校同士の合同練習・演奏会を実施しました。推進校以外の中学・高校に対しても外部講師を派遣し、県全体の教員の指導力・生徒の演奏技能が向上しました。</p> <p>弦楽クラブ推進校を3校増やし、16校において弦楽活動を推進しました。一流の演奏家(五嶋みどり氏等)による研修会、合同練習会や発表の機会を増やし、演奏技術の向上を図りました。小中高校における弦楽クラブ参加者は48人増え、合計219人を育成しました。</p> <p>弦楽クラブ等参加者数 219人</p> <p>小・中・高校で越前和紙を活用した日本画の授業を行い、作品展を県内2カ所で開催しました。また、東京藝術大学との連携を進め、新たな研究推進校(丸岡高校・勝山高校)において、東京藝大院生による出前授業や美術部員の研修会を実施しました。</p> <p>研究推進校(美術) 39校</p>

項目	実施結果
<p>○「こども歴史文化館」の充実と入館者アップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 福井の先人の業績や生き方、歴史背景などをわかりやすく展示するとともに、体験メニューを拡充し、学校の団体利用など来場者数の拡大を図ります。 (平成28年度 55,187人) <p style="text-align: right;">来場者数 57,000人</p>	<p>[成果等] 目標を達成しました。</p> <p>特別展を開催し、泰澄や松旭斎天一など福井の先人をわかりやすく紹介するとともに、館内各所に職員によるトリックアートを取り入れるなど、こどもたちが関心を持てる参加型の展示を行いました。</p> <p>学校等の団体利用については、出前授業やゲームを通して楽しく学べる企画をし、昨年度を約400人上回る141団体3,981人の利用がありました。</p> <p style="text-align: right;">来場者数 57,650人</p>
<p>◇福井が誇る歴史遺産の発信【部局連携】</p> <p>○国宝・重文の指定迅速化</p> <ul style="list-style-type: none"> 工芸技術、建造物や古文書などの文化財の指定を進め、観光やまちづくりへの活用につなげます。 (平成28年度 累計25件) <p>国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 10件増 累計35件</p> <ul style="list-style-type: none"> 丸岡城の国宝指定を目指し、坂井市が行う建築年代の絞込み等、歴史的価値を明らかにするための調査を支援します。 	<p>[成果等] 目標を上回って達成しました。</p> <p>国指定では、「瀧谷寺本堂等(坂井市)」、「越前鳥の子紙(越前市)」、「興道寺廃寺跡(美浜町)」の3件が文化財に指定されました。</p> <p>県指定では、「賀茂神社大鳥居(福井市)」や「和楽器(小浜市)」など、新たに10件の文化財を指定しました。</p> <p style="text-align: right;">国宝・重要文化財・県指定文化財の新規指定件数 13件増 累計38件</p> <p>建築年代の絞込みのため、坂井市が行う石垣や石瓦の調査、現存する天守との構造の比較調査、古文書など関連資料の調査等を支援しました。</p>

【実施結果の区分】

- ・目標を上回って達成しました。(例:成果が目標を概ね2割超えて達成されたもの)
- ・目標を達成しました。(例:成果が目標どおり達成されたもの)
- ・目標を一部達成しませんでした。(例:成果の一部が目標に及ばなかったもの)
- ・目標にはいたりませんでした。(例:成果が目標に及ばなかったもの)
- ・引き続き実施します。(例:成果を上げるためには年度を超えて実行する必要のあるもの)